

# 国立科学博物館に収蔵されている福江島産ヤマコウモリ標本について

安田 雅俊<sup>1)</sup>・池崎 善博<sup>2)</sup>・上田 浩一<sup>3)</sup>・川田 伸一郎<sup>4)</sup>

On a specimen of the Japanese giant noctule collected on Fukue Island, Nagasaki Prefecture, preserved in the National Museum of Nature and Science.

Masatoshi YASUDA<sup>1)</sup>, Yoshihiro IKEZAKI<sup>2)</sup>, Koichi UEDA<sup>3)</sup> and Shin-ichiro KAWADA<sup>4)</sup>

キーワード： *Nyctalus aviator*, 翼手目, ヒナコウモリ科, 五島列島, 採集記録

ヤマコウモリ *Nyctalus aviator* (翼手目ヒナコウモリ科) は、日本 (北海道, 本州, 四国, 九州, 沖縄) のほか, 中国東部, 朝鮮半島に産するコウモリで (Fukui, 2015), 長崎県内では本土, 対馬, 壱岐, 福江島に産することが知られている (Yoshiyuki, 1989; 前田, 1984, 1996; 松尾, 2010). 池崎 (1995) は長崎県五島列島の動物の紹介のなかで「ヤマコウモリは福江市内で過去 1 頭見付かったのみ」 (漢数字をアラビア数字に変更して引用) と記したが, その標本の所在と採集記録は十分に知られていない. 本稿の目的はこの標本にまつわる事柄を記録することである.

まず, この標本は, 液浸標本およびとりだされた頭骨標本として, 国立科学博物館筑波研究施設 (茨城県つくば市) に保管されているヤマコウモリ (国立科学博物館の標本番号: NSMT-M22559; グローバルユニーク番号: 18f3f5f3-4e22-4237-balc-cb95793e3bad) と考えられる. 標本ラベル (図 1) と国立科学博物館の標本台帳によれば, この標本は♂で, 採集日

は「X. 20. 1973」すなわち 1973 年 10 月 20 日, 採集地と採集者はそれぞれ「福江島福江市堤町」, 「沢田 勇氏」であった.

この標本に基づき福江島産ヤマコウモリについて最初に報告したのは Yoshiyuki (1989) であった. その外部計測値 (単位: mm) は前腕長 (FA) 61.9, 頭胴長 (HB) 83.0, 尾長 (T) 55.0, 後足長爪有 (HFcu) 14.0, 下腿長 (Tib) 18.0, 耳長 (E) 16.0, 耳珠長 (Tr) 6.0 であった.

次に, 沢田 勇 (敬称略, 以下同じ) と福江島産ヤマコウモリとの関係について記す. 奈良産業大学の沢田は, 1987 年 5 月と 11 月にコウモリ類の内部寄生虫の研究のため福江島を訪れた (沢田, 1988, 1994). 当時, 五島高校に勤めていた池崎善博 (本稿の第二著者) は沢田の現地調査に協力し, 福江島と嵯峨ノ島の複数の洞穴を案内した. その際, 沢田から口頭で, (1) かつて山下典郎から福江島産のコウモリが沢田のもとに送られてきたこと, (2) 採集地は翁頭中学校で, 校舎屋上にて死体を拾得したと伝えられたこと, (3) 標本を国立科学博物館に送ったところ, 吉行瑞子さんがヤマコウモリと同定したことを知らされた.

そこで我々は山下典郎, 山下の勤務先, 国立科学博物館の翼手目標本について調査した. 以下, 明らかにしたことを年代順に記す.

- ① 高島 (1953): 福江島におけるジャコウネズミ *Suncus murinus* (真無盲腸目トガリネズミ科) の生息を高島春雄に初めて伝えた人物として「有川小学校教官山下典郎」の名前が記されていた.

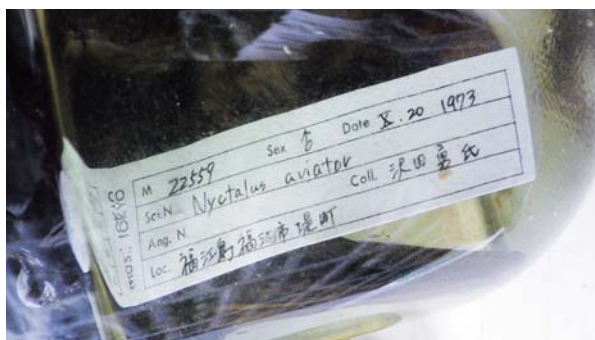


図 1. 福江島産ヤマコウモリの標本ラベル. 国立科学博物館所蔵 (M22559).

<sup>1)</sup> 〒860-0862 熊本県熊本市中央区黒髪 4-11-16 森林総合研究所九州支所

<sup>2)</sup> 〒852-8047 長崎県長崎市若竹町 39-13

<sup>3)</sup> [Redacted]

<sup>4)</sup> 〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1 国立科学博物館動物研究部

- ② 高島 (1959) : 福江島におけるジャコウネズミの生息状況調査 (1953年10月実施) を企画し, その結果を高島春雄に伝えた人物として「山下典郎」の名前が記されていた。山下の勤務先として, 1947年から1951年まで福江中学校, その後に有川小学校へ異動と記されていた。
- ③ 山口 (1966) : 爬虫類の標本収集の協力者として「福江中学山下典郎」の名前が挙げられていたが, 勤務時期は不明であった。
- ④ 植松ほか (1969) : 山下典郎は, 『五島の自然』の編者・執筆者のひとりで, 「五島の獣類」, 「太田のシカとイノシシ」, 「ジャコウネズミ」, 「五島の爬虫類」, 「五島の両生類」, 「五島のセミ」等の項目を担当した。刊行時の肩書は「奈良尾中学校教諭」であった。
- ⑤ 標本の採集時 (1973年10月) の山下典郎の勤務先は福江市立本山小学校であった。1972年度から1974年度, 同校の教頭として在職していた。
- ⑥ 無署名 (1974) : 爬虫両棲類学会の会員名簿 (1974年9月1日現在) に「山下典郎 853 長崎県福江市堤町1341, 市立本山小学校」と記されていた。「853」は当時の郵便番号を示す。
- ⑦ 無署名 (1975) : 「山下典郎氏は昭和50年1月急逝された」との訃報が掲載されていた。
- ⑧ 沢田 (1988, 1994) : 1987年, 沢田がコウモリ調査のため福江島を初めて訪問したことが読み取れる。
- ⑨ 国立科学博物館の翼手目標本のうち, 沢田から寄贈された長崎県産の標本は31点で, 内訳はヤマコウモリ1点 (M22559), キクガシラコウモリ *Rhinolophus ferrumequinum* 16点, コキクガシラコウモリ *R. cornutus* 14点であった。また, 長崎県産のヤマコウモリ標本は, 本稿の対象とした福江島産の1点のほか, 対馬産の2点が収蔵されていた。
- ⑩ 2022年8月現在の翁頭中学校の所在地は五島市堤町1765番地, 本山小学校の所在地は五島市堤町1341番地であった。両校とも福江島東部 (3次メッシュコード: 4928-0605) に位置し, 直線距離で約500m離れていた。また, 両校とも旧福江市内に所在し, 1973年当時は福江市立であったが, 現在は五島市立である。

以上を整理すると, 国立科学博物館に収蔵されている福江島産のヤマコウモリ (M22559) は, 1973年10月20日に, 旧福江市立翁頭中学校の校舎屋上において死体が採集され, 旧福江市立本山小学校に在職していた山下典郎によって沢田に提供されたものと考えられる。

沢田が国立科学博物館に送付したこの福江島産の標本がヤマコウモリであったことはYoshiyuki (1989) によって初めて公表されたが, その公表前 (遅くとも沢田が初めて福江島を訪問した1987年5月まで) に, 同定結果が沢田に伝えられていた。それが生前の山下に伝えられたか否かは不明である。

この標本 (M22559) の採集からYoshiyuki (1989) までに発表された文献 (山口, 1981; 前田, 1984) には福江島産ヤマコウモリに関する記述はない。この理由として, 採集から公表までのタイムラグがあったことだけでなく, 山下が1975年1月に他界したために採集記録が後世に伝わらなかったことが考えられる。

1973年以降の福江島産のヤマコウモリの記録はない。本種は樹洞を昼間の隠れ家にするコウモリで, 原生林内の樹洞よりも, むしろその周辺部や市街地周辺の大木のある林 (防風林や防潮林, 社寺林) などからよく見つかる (前田, 2001)。このようなハビタットにおいて今後の生息調査が望まれる。

## 謝 辞

福井 大, 松尾公則, 本川雅治, 鳥居春己の諸氏 (敬称略, 順不同) から本稿に対する有益な情報やコメントをいただいた。また, 山下典郎氏の在職については五島市立本山小学校から情報提供を受けた。ここに深謝する。

## 文 献

- 無署名. 1974. 会員名簿 (昭和49年9月1日現在・ABC順). 爬虫両棲類学雑誌 5 : 95-98.
- 無署名. 1975. 会員移動 (昭和50年11月1日現在). 爬虫両棲類学雑誌 6 : 60.
- Fukui, D. 2015 *Nyctalus aviator* Thomas, 1911. The Wild Mammals of Japan. Second Edition (Ohdachi, S. D., Ishibashi, Y., Iwasa, M. A., Fukui, D., and Saitoh, T., eds.). 76-78 pp, Shoukadoh and the Mammal Society of Japan. Kyoto.
- 池崎善博. 1995. 第五章五島の動植物 第一節動物. 福江市史 (上巻) (福江市史編集委員会 編). 65-74pp, 福江市. 福江.
- 前田喜四雄 1984. 日本産翼手目の採集記録 (I). 哺乳類科学24 (2) : 55-78.
- 前田喜四雄 1996. 日本産翼手目 (コウモリ類) の分類レビューと解説. 哺乳類科学36 : 1-23.
- 前田喜四雄. 2001. 日本コウモリ研究誌 - 翼手類の自然史. pp. 203, 東京大学出版会. 東京.

- 松尾公則 2010. 長崎県の哺乳類. pp.173, 長崎新聞社. 長崎.
- 沢田 勇 1988. 福江島における洞穴棲コウモリの分布及びその内部寄生虫相. 長崎県生物学会誌(34): 1-6.
- 沢田 勇 1994. 「日本のコウモリ洞総覧」こぼれ話. 長崎県生物学会誌 (44): 99-103.
- 高島春雄 1953. ジャコウネズミは肥前五島にも. 日本哺乳動物学会報 7 : 3.
- 高島春雄 1959. 五島列島陸棲動物相管見. 山階鳥類研究所研究報告 1 (13): 522-530.
- 植松庄寿・井関竹次・山下典郎(編) 1969. 五島の自然. pp.167, 五島理科教育協会. 福江.
- 山口鉄男 1966. 長崎県産の爬虫類. 長崎大学教養部紀要(自然科学) 6 : 19-36+ 5 Plates.
- 山口鉄男 1981. 五島の哺乳類. 五島の生物—壱岐・対馬との対比(長崎県生物学会編). 139-148pp, 長崎県生物学会. 長崎.
- Yoshiyuki, M. 1989. A Systematic Study of the Japanese Chiroptera. pp.242, National Science Museum, Tokyo.